

## 環境的に持続可能な都市へ

～首都ビエンチャン都市水環境改善プロジェクト始動～



【写真:ゴミが散乱するビエンチャン市内の用水路】

10月より「首都ビエンチャン都市水環境改善プロジェクト」が始まりました。本プロジェクトは首都ビエンチャンの汚水処理を中心とした水環境管理のための組織・制度の枠組みが強化されることを目標とし、(1)カウンターパート機関の汚水処理に必要な環境に配慮した施設の計画・設計能力が強化される、(2)カウンターパート機関による水環境管理に関する法規法令の運用能力が強化される、(3)カウンターパートによる環境教育を通して市民の環境意識が向上する、以上3点を成果としています。本プロジェクトは生活排水への対応に的を絞って実施します。具体的には環境に配慮した汚水処理施設の適切な配置(ゾーニング)

計画を含む汚水適正処理構想の策定、同構想実施に必要な法整備及び運用能力の向上、また住民に対する環境教育を通じ、適切な汚水管理体制の構築を図るもので、「環境的に持続可能な都市」を目指す首都ビエンチャンにおける実施意義は高いと考えます。協力内容により担当部局が異なるため複数の機関をカウンターパートとしたダイナミックなプロジェクトです。

## ラオス日本センター 新プロジェクト開始

2014年9月より、「ラオス日本センター民間セクター開発支援能力強化プロジェクト」が始まりました。2001年より同センターで継続されている技術協力プロジェクトでは、ラオス日本センター(LJI)のラオス側スタッフの自助努力によりセンター収入を増加させることを目標としています。8月末の前プロジェクト終了時点では、センターの運営費の80%をラオス側の予算で賄うという目標を達成することが出来ました。さらに日系企業との連携を重視し、工場視察、就職フェア、ビジネス・フォーラム、ビジネス交流などを通じて、日系企業とのパイプ役を担ってきました。今年9月より始まった5年間の新規プロジェクト



【写真:新プロジェクトの調印式】

は、これらの流れをさらに加速させる事が望まれています。LJI自身でMBAプログラム、実践ビジネスコース、ティラーメードコースにフィードバックできるシラバスの編成、各種教材(テキスト)や事例集の作成が出来るように体制整備に努め、我が国中小企業のネットワークや知見を、JICAが有する途上国の支援ツールと組合せ、海外投資意欲の向上や海外ビジネス拡大を促進することを重要な役割と位置づけ活動を開始しました。また、サバナケットを中心に、日系企業の投資機運が高まり、これから更に投資の盛り上がりが見込まれていることから、LJIの有する過去の経験、知見、人的ネットワークを積極的に活用することで、ラオスの経済開発に貢献していく事が期待されています。

# ラウンドテーブル・インプリメンテーション・ミーティング報告

ラオスでは、政府と開発パートナーとの対話の場としてラウンドテーブル・ミーティング(RTM)が3年に1度開催されており、その間の年にはラウンドテーブル・インプリメンテーション・ミーティング(RTIM)が開催されています。今年、11月14日にRTIMが、「NSEDP・MDGs・LDC卒業の達成加速化」をテーマに開催されました。同会合では、多くの開発パートナーから、経済成長政策において安定化と持続性の重要性が訴えられたと共に、MDG達成のために、より包括的なアプローチが必要であるとのコメントが多くなされました。

オフトラックMDGとなっている、MDG1(栄養不良)、MDG2(普遍的基礎教育の達成)、MDG4(乳幼児死亡率)、MDG5(妊産婦死亡率)、MDG9(不発弾除去)に関して、これまでのラオス政府の取組及び進捗を称賛するとともに、残された課題について、さらなる努力が要請されました。

ラオス政府からは、これまでのドナー支援に感謝するとともに、引続き、2016年～2020年の次期国家社会経済開発計画の策定、ポストMDGへの課題への取組、LDC卒業に向けた支援の要請がなされました。

関連資料は右記ウェブサイトからも入手可能です。(http://www.rtm.org.la/)



## 青年海外協力隊 ラオス人家庭でホームステイ体験！

サバイディー！9月30日に着任した平成26年度1次隊の森治彦です。任地はウドムサイ県、指導科目はバレーボールです。ビエンチャンでの1カ月の語学訓練中、ラオス人宅でのホームステイを体験しました。日本では普段何気なくシャワーを浴びたり水道水を飲める環境がありますが、ホームステイ先のMod家では瓶に水を汲んでシャワーを浴び、また水道水は飲めず買ったミネラルウォーターを飲んでいる…等その一つ一つの日本との生活の違いにも驚き、ラオス人の生活を知る良い機会になりました。また受入先のMod家の旦那さんがラオスの体育大学を卒業しており、スポーツで使えるラオ語をたくさん教えてくれたのも勉強になりました。首都ヴィエンチャンを発つ前の週末に、個人的にMod家を再び訪ねたときは、「家族が旅立つんだから今日はお祝いだな」と言って宴会が催され、2度目のホームステイになりました。そういったラオス人の持つ優しさや親しい関係性に触れられたのも、私にとってはとても良い経験になりました。この経験を任地であるウドムサイ県でも活かしたいと思います。



【写真：ホストマザーのMrs. Modと森隊員】

これから2年間の任期の中では、私の活動の目標である「バレーボールの普及と振興」をしっかりと意識しながら、日常生活からラオス人と同じ目線に立って物事を見て考えることを忘れずに過ごしていきたいと思います。多くのラオス人と触れ合うことで日本との文化の違いを肌で感じ、バレーボールだけではなく密接な関係を作りたいと思っています。

【NGOの活動現場から—ラオスのこども(2014年～2018年草の根技術協力事業)】

## 学校図書室からアジアの作家へ

東南アジア文学賞は、1979年に創設された文学賞で、毎年ASEAN加盟国が国ごとにそれぞれ選出した作家に授与される賞です。今年と同賞に加え、25歳以下の作家を対象にした「東南アジア若手文学賞」も初めて創設され、ラオスからは15歳の高校生、カタイさんが入賞しました。彼女はJICAの草の根技術協力事業で学校図書室の普及活動を行うNGO「ラオスのこども」が図書室を創設した学校に通っています。

カタイさんは小さいころから雑誌編集の仕事をしていたお父さんの影響で本に親しんできました。両親は本が大好きなカタイさんのために物心ついた時から絵本の読み聞かせをしてくれたそうです。今回入賞した本の名前は「Dream Comes True」。とても家庭的だった父親が突然アルコール依存症になり、ある日事故にあい入院しました。しかし貧しかった家族は治療費がまかなえませんでした。そこで娘は自転車を買うためにこつこつ貯めていたお小遣いを父親の治療費に充て、退院後父親は元の優しい姿に戻ったというお話です。カタイさんがこの物語を描いたきっかけは、当時カタイさんのお父さんも仕事で忙しく、あまり家族との時間がもてなかったそうです。そんなお父さんや、世の中のすべての親や子供に向けて「家族との時間を大切にしたい」という願いを込めて書いたそうです。

カタイさんにとって本を読むということは、「生きるための答えを見つけること」。「本を読んでバカになる人はいない。すべてのラオスの子どもたちにももっと本を読む機会を与えてほしい」と話します。

「ラオスのこども」は草の根パートナー型事業で2014年～2018年までの間、「学校図書室の地域への展開事業」を行っています。ルアンナムター県及びビエンチャン県の対象校において、学校に創設した図書室を地域の方へも開放し、大人も子供もみんなで読書ができる環境を整える支援です。今後もラオスの子供たちに本を読む機会を提供し、多くの子供が夢や希望を持つことが出来る社会づくりに貢献していきます。



カタイさんは、これまで続けてきた読書推進活動の一つの成果だと言えます。子供は読書することで、知識を得て、視野を広げ、自分を知り、自分の人生を考え、選択ができるようになります。より多くのラオスの子供たちが、たくさん本を読んで、自分の夢を持ち、良い人生選択ができるようになってもらうため、これからも頑張ります。(ラオスのこども 本多敏子駐在員)



### 【サバナケットの珍味！？】

一見サザエのように見えるこちらの貝、サバナケット県チャンポン郡ではちょっとした名物の“ジャンボタニシ”料理です。見た目も食感もサザエそっくりですが、実はこの貝、「世界の侵略的外来種ワースト100」にも選ばれた危険生物なのです。ラオスでも日本でも近年、水田に生息して稲を食害することで多くの農家が被害を受けています。また、体内に広東住血線虫などの寄生虫を宿しており、よく加熱して食べないと寄生虫が人体に感染し、死に至ることもあります。サバナケットの人々は「セープ(おいしい)」とって好んで食べているようですが、みなさんお試しになる際は十分加熱しているか注意してからお召し上がりください。

# Welcome to JICA Laos Office!

## 牧本小枝次長

神谷次長の後任として11月にラオス事務所に着任しました。これまで東京でラオスを担当していた時期もありましたが、現場からたずさわれるのを大変うれしく思っております。まだ赴任して1週間ですが、ラオスでも日本の民間企業の進出が活発であることや、中国、韓国、ベトナムといった新興ドナーの早い動きもさっそく肌で感じています。来年は国交60周年、JOCV50周年という記念すべきタイミング。さまざまな状況をしっかりと見ながら、またラオス滞在の諸先輩から学ばせていただきながら、業務に取り組んで参りたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



## 山岸望健康管理員

こんにちは。10月16日から在外健康管理員として赴任しました、山岸 望です。

これまで在外健康管理員としてフィリピン、フィジーと島国に赴任していました。今回、山国のラオスに赴任しましたが、雄大なメコン川を前に平野の首都ビエンチャンに居ると、山国である事を忘れてしまいそうです。医療サービスが整っていないラオスの医療事情ですので病気を怪我をしないよう予防していくことが大切です。日頃の健康管理を重点に皆様をサポートしていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



## 【ラオス生活コラム】モン族のお正月



11月23日モン族の新年を迎えました。元旦から1週間～2週間の間、モン族が多く住むシェンクワン県やビエンチャン県の各地で盛大にお祝いがされました。モン正月では、男女列になってテニスボールほどの小さなボールを投げ「お見合い」を行います。気になる異性を見つけたらボールを投げ、歌を歌って気持ちをアピールします。またモン族は同じグループ同志では結婚できないため、必ず先に名前を聞きます。モン正月はモン族の人々にとって最大の「恋人を見つけるチャンス」でもあるのです。モン正月にもう一つ欠かせないもの、それが「餅つき」です。日本の臼は丸型ですが、モン族の臼は長方形。二人がかりで順々に杵をついて餅つきをしていきます。ついた餅は揚げてサトウキビのシロップをつけて食べるのが一般的です。他にも闘牛やコンサートなど、イベントが盛りだくさんのお正月でした。

## 年末年始注意喚起

お正月は、すぐそこ。年末年始にご旅行を予定されている方も多いのではないのでしょうか？ 旅行届のご提出は、お早目に！

ご旅行時は、我が身の安全管理に加え、パスポート管理の徹底もお願いいたします。パスポートを使用した後、しまったことを確認するぐらいの意識が必要です。ここに入れたはずだけど……は、冷や汗のもとです。また、飲酒運転が増えることも予想されますので、十分な注意を払い、楽しいお正月をお過ごしください。(総務班・黒田)

## 日ラオ外交樹立60周年記念ロゴ発表！



2015年は日本とラオスの外交樹立から60周年記念の年です。それに合わせ、ラオスの象徴である象と、日本の国花である桜をあしらった新ロゴが発表されました。

おことわり：本ニュースレターはJICAラオス関係者を対象としたものであり、JICAラオスの活動内容及びニュースの共有を目的とし、約3ヶ月に1度を目処に発行していく予定です。ご意見・ご質問は事務所総務・広報班までお願いします。(担当：木村、前納)